

## リモートサービスボード搭載キット使用上の留意事項について

このたびは、弊社のリモートサービスボード搭載キット (PG-RSB0P8) をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。本製品のご使用におきまして、留意事項がございます。

2002年12月  
富士通株式会社

### 1. ファームウェアのアップデート

ファームウェアをアップデートするための Remote Service Board Utility を作成する場合、フロッピーディスクが2枚必要です。モジュールは、下記のフォルダ配下に格納されています。

<CD-ROM のドライブ>¥Svmanage¥Tools¥RSBFlash¥fpd1

<CD-ROM のドライブ>¥Svmanage¥Tools¥RSBFlash¥fpd2

ファイルの権限変更処理 (Window の場合は abset バッチ、Linux の場合は chmod コマンド) は、2枚目のフロッピーディスク (fpd2 配下のモジュール) に対してのみ実施してください。

詳細は、本製品に添付の取扱説明書を参照してください。

### 2. Web インタフェース

- 画面構成、および、メニュー構成が、PRIMERGY ドキュメント&ツールCDに収録されている「Server View ユーザーズガイド」と一部異なっていますが、各項目の機能に違いはありません。
- 下記の項目が追加されています。
  - ・ [ASR]-[Alarm Handler]-[E-Mail]-“Dial Out Using PPP”  
E-Mail を PPP 接続で送信します。
  - ・ [Power Supply]-[Power ON/OFF and Restart]-[Retart]-“Power Cycle”  
サーバの電源をオフ / オンします。
  - ・ [LAN Configuration]-[Telnet]-“Force SSL”  
“Enabled”設定の場合、SSL 認証を行なわない Telnet 接続を抑止します。
  - ・ [Console Redirection]  
コンソールをリダイレクションします。
  - ・ [Version Management]  
インベントリ情報を表示します。
  - ・ [Online Management]  
ヘルプを表示します。

- Https(SSL)は、常に有効です。

### 3 . Remote Control Service

- メニュー構成が、PRIMERGY ドキュメント&ツールCDに収録されている「Server View ユーザーズガイド」と一部異なっていますが、各項目の機能に違いはありません。
- 下記の項目が追加されています。
  - ・ [Enclosure Information]-“Temperature”、“Voltages”、“Fans”、“Power Supply”、“Door Lock”  
サーバ本体の各環境状態を表示します。
  - ・ [Service Processor]-[Reset Service Processor]  
リモートサービスボードをリセットします。
  - ・ [Service Processor]-[Reset Configuration]  
リモートサービスボードの設定をデフォルトに戻します。
  - ・ [Service Processor]-[Generate SSL Certificate]  
セキュリティ証明書を新たに作成します。
- Telnet の Port 番号のデフォルトは、3172 となっています。

### 4 . Fujitsu Remote Service Board Utility

- [LAN Interface]シート-[HTTP]-[Use SSL]の設定変更は、Http(Port)の有効/無効の設定となります。
- Https(SSL)の Port ( デフォルト : 443 ) を変更するには、Web インタフェースを使用してください。

### 5 . リモートサポートサービス

リモートサポートサービスにより、既に REMCS エージェントがインストールされている場合は、下記の処理を実施してください。REMCS エージェントの詳細については、サーバ本体に添付の「REMCS エージェント運用ガイド」を参照してください。

- 起動監視、および、ソフトウェアウォッチドックによる異常をリモートメンテナンスセンターへ通知するためには、Server View、またはWebインタフェースで、これらの監視機能を有効にしてください。  
監視機能の設定方法については、PRIMERGY ドキュメント&ツールCDに収録されている「Server View ユーザーズガイド」を参照してください。

## 6 . UPSによるスケジュール運転

UPSを使用してスケジュール運転されている場合、以下のことに留意してください。

- SNMPトラップ通知を設定している場合、スケジュール運転によりサーバの電源が正常に切断された場合でも、停電を示す下記のアラームが通知されます。

- ・ Voltage too low

このトラップを抑止するためには、ServerView で次のようにアラームモニタを設定してください。

ServerView - [アラーム] - [モニタ]でアラームタイプの “ Voltage too low ” を選択し、[除外]を押下してください。

- アラーム通知 (SMTP, Pager) を設定している場合、スケジュール運転によりサーバの電源が正常に切断された場合でも、停電を示す下記のアラームが通知されます。

- ・ Power supply voltage 2 (RSB AUX Power) in cabinet %d at server *ServerName* is too low.

このアラームを抑止するためには、Web インタフェースで次のようにアラームハンドラを設定してください。

Web Interface - [Recovery] - [ASR] - [Alarm Handler] - [作成したアラーム] - [Error Forwarding]の “ Voltages ” のチェックを外してください。

- スケジュール運転によりサーバの電源が正常に切断された場合でも、本製品のエラーメッセージとして停電を示す下記のメッセージ (ログ) が格納されます。

- ・ #1501: Voltage 2 in cabinet %d is too low

- スケジュール運転によるサーバ電源切断後のOS起動時に、下記のPopup メッセージの表示およびNT イベントログ (エラー) が格納されますが、OS動作には影響ありません。

An error was recorded on server *ServerName*. See server management event / error log (Recovery) for detailed information.

ソース名 ; ServerControl

イベント ID : 10634

尚、リモートサービスボードを使用してスケジュール運転されている場合には、上記の留意事項はありません。

## 7. その他の留意事項

本製品では、下記の機能はサポートしていません。

- OS 起動監視 ( Boot Watchdog ) によるエラー通知

本製品では、下記の留意事項があります。

- ソフトウェアウォッチドック ( OS Watchdog ) または本製品上の温度異常を検出した場合、リトライカウント 1 は 0 と同じ動作 ( 電源切断 ) を行ないます。

PRIMERGY L250 では、下記の留意事項があります。

- コンソールリダイレクションはサポートしていません。
- E-Mail の PPP 送信はサポートしていません。
- POST ( Power On Self Test ) 中、電源制御 ( 電源オフ、リセット ) は無効です。
- 本製品による電源制御 ( 電源オフ / オン、リセット ) を行なった場合、稀に次のログが格納されることがありますが、システム動作には影響ありません。

#2F07: Internal SM I2C error on bus 0 in cabinet 0

リモートサービスボードに関する共通の留意事項については、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD に収録されている「Server View ユーザーズガイド」を参照してください。

## 補足

リモートサービスボードに関する説明は、PRIMERGY ドキュメント & CD に収録されている「ServerView ユーザーズガイド」の下記の章を参照してください。

『Remote Control Service』、 『リモートサービスボード』